展望 2025
トップインタビュー
2025年1月21日付　化学工業日報

バイエルクロップサイエンス

大島 美紀 社長

デジタル活用 農薬散布に力

◆…市場環境はいかがですか。

「日本市場は他の新興国市場に比べると成熟しているものの、企業として成長していかなければならない。日本は農業従事者の高齢化が進んでいるが、いずれは他の国々も同様の課題を抱えることになる。そのときに今、われわれが取り組んでいることが生かされる日がくると思っている。日本では既存剤の販売だけでなく、新しい取り組みとしてデジタル技術で効率的な農薬散布を実現する『水田雑草テーラーメイド防除』の展開に注力しており、将来性を感じている」

◆…2024年6月に社長に就任されました。その受け止めは。

「ファイナンスやコマーシャル、営業関係に長く従事していた。数字関係の業務を多く手がけてきたが、現在注力しているデジタル関係はそれほど詳しくなかった。かつ、それが日々アップデートされている。腰を据えて勉強するとともに、現場の声を聞くべく、全国の農家さんを訪ねることに時間を割きたい。もともと営業を担当していたので農家さんの声を聞くのが好きだった」

◆…初任地・佐賀県での経験が生かせますね。

「佐賀県では水稲だけでなく、タマネギやミカンなどさまざまな作物が栽培されている。隣の長崎県では、ばれいしょも作られている。いろいろな作物に触れられたのは経験として良かった。当時交流のあった農家さんとは今もつながっている。ただ、かつて若手といわれていた農家さんたちが高齢化し、継ぎ手がいないという課題を抱えている。これが全国の農家の現状なのだろう」

◆…水田雑草テーラーメイド防除が課題解決の一助になりそうですね。

「土壌の健全性を改善することを中心に据え、その回復力の強化を目指した成果ベースの生産モデルとして『リジェネラティブ農業』を打ち出している。農家の収益性向上と環境負荷低減の両立を目指すものだ。水田雑草テーラーメイド防除はリジェネラティブ農業に合致した農法といえる」

「水田雑草テーラーメイド防除を基軸とした共創を推進する。さまざまなソフトウエアがつながり、結果的に生産者から消費者までつながるサイクル（バリューチェーン）を形成し、それをどんどん回していく。適切な散布量や二酸化炭素排出量など可視化ツールを手がける企業もサイクルに加える。30年にはバリューチェーンの中心にいて、共創のキープレーヤーとなりたいと考えている」

◆…生物農薬の取り組みはいかがですか。

「日本で一度展開しようとしたが、中止した経緯がある。現在、再登録に向けた取り組みを進めている。グローバルでは生物農薬のラインアップを持っている。いくつかのセレクションをしているところである。総合防除という側面からも考えなければならないテーマだ」

（中尾祐輔）

記者の視点

日本農業が抱える大きな課題は農業従事者の高齢化と担い手不足だ。化学農薬の使用量の適正化と環境負荷低減も重視しなければならない。これらの課題を解決するのがリジェネラティブ農業であり、その要が水田雑草テーラーメイド防除だ。農家の収益性を上げるとともに、環境負荷低減にも貢献できるソリューションの拡大に注目したい。また、共創パートナーの広がりにも期待は集まるだろう。